

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	敬愛大学
設置者名	学校法人千葉敬愛学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
経済学部	経済学科	夜・通信		34		34	13	
	経営学科	夜・通信				34	13	
国際学部	国際学科	夜・通信			17	17	13	
	こども教育学科	夜・通信			17	17	13	
教育学部	こども教育学科	夜・通信			14	14	13	
(備考) 2021年度より、教育学部こども教育学科を設置。このため、国際学部こども教育学科は募集停止。学年進行により、教育学部こども教育学科の在學生は1年生のみ。国際学部こども教育学科の在學生は2年、3年、4年生となる。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学ポータルサイト(Keiai campus navigator)に Web シラバスとして公表。
<https://kcn.u-keiai.ac.jp/up/faces/login/Com00505A.jsp>
 ゲストユーザーとしてログインすることで外部からも閲覧可能。
 抽出は、シラバス照会→シラバス検索“キーワード”に「実務経験」と入力。

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	敬愛大学
設置者名	学校法人千葉敬愛学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページで公表。 https://gakuen.u-keiai.ac.jp/corporation/official/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	2021年6月～2025 年5月	法人運営・学校経営に関する助言
非常勤	研究員	2019年10月～ 2023年9月	法人運営・学校経営に関する助言
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	敬愛大学
設置者名	学校法人千葉敬愛学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 本学では翌年度の開講科目、担当教員が確定するのを待って、毎年 12 月頃に学内ポータルサイト上に公開する Web シラバスの入稿を依頼している。依頼に際しては教務部委員会が監修したシラバス作成上の注意事項等を明示した資料「シラバス執筆ガイドライン」「シラバス作成例およびチェックポイント」を配付し、全学的に注意事項を周知して共通理解を図っている。 入稿されたシラバスは学部ごとに教務委員がガイドライン、チェックポイントに照らして内容を確認し、必要に応じて加筆修正を指示している。これらの加筆修正作業を終えて、前期ガイダンスが行われる 3 月末には学内ポータルサイト上に配信し、学生が閲覧できるようにする。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>本学ポータルサイト(Keiai campus navigator)に Web シラバスとして公表 https://kc.n.u-keiai.ac.jp/up/faces/login/Com00505A.jsp ゲストユーザーとしてログインすることで外部からも閲覧可能。</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) シラバスに「授業のねらい」「到達目標」「成績評価方法」ならびに到達目標に対する 5 段階の判定基準による「評価基準」を明示している。また、事前・事後の学修に必要な内容、時間数も明示している。多くの科目で振り返りとしてリアクションシートを提出させており、各回行われた授業の理解度、参加度を測定し学生の学習意欲の把握に努めている。また学習成果は科目ごとに定める試験、レポート等の適切な成績評価方法により測定され、評価基準に沿って厳格かつ適正に単位認定が行われている。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価にかかる客観的な指標として全学部でGPA制度を採用している。GPAは Semesterごとに各学生に公表しており、自身の学修への取り組み状況を把握した上で4年間の学修計画を具体的に策定する際の指針となるようにしている。

指標の具体的な内容については学生便覧「CAMPUS LIFE」において学生に以下のとおり周知されている。

・成績評価

成績	成績表記	G P
90～100点	秀	4.0
80～89点	優	3.0
70～79点	良	2.0
60～69点	可	1.0
59点以下	不可	0

・計算方法

$4.0 \times \text{秀の修得単位数} + 3.0 \times \text{優の修得単位数} + 2.0 \times \text{良の修得単位数} + 1.0 \times \text{可の修得単位数}$
総履修登録単位数

GPAについては学修指導に際しても利用しており、教務委員会が定める修得単位数、GPAの基準を下回る学生を Semesterごとに行われる学修指導の対象としている。

客観的な指標の算出方法の公表方法	ホームページで公表。 https://www.u-keiai.ac.jp/outline-disclosure/information/koukai/
------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

大学全体で統一されたディプロマ・ポリシーを策定し、全教職員が「敬愛大学教育憲章」の下で学修支援、教育目標の達成に取り組んでいる。さらに大学全体の方針を実体化させるために学部学科においてもディプロマ・ポリシーを策定している。

(大学統一ディプロマ・ポリシー)

敬愛大学教育憲章で示された建学の精神「敬天愛人」の精神に基づく総合的人間力を持つ人材として、所定の単位を修得し、以下の到達目標実現のための努力を惜しまない学生に対して卒業を認定し、学士の学位を授与する。

- ・知識と教養。
- ・専門性に基づく思考力・判断力。
- ・多様性の理解と協働性の実践。

(経済学部経済学科ディプロマ・ポリシー)

内外の経済情勢を広く学び、経済学的思考力と豊かな人間性を身に付け、建学の精神「敬天愛人」に基づき社会の発展に貢献できる人材を育成することを目的としている。この教育目的を達成するため設置されたコースごとの専門教育課程に則り、所定の科目を履修・修得した者に対して、学士（経済学）を授与する。

1. 社会科学を基軸とした幅広い教養を深めるとともに、経済学の知識を基に社会の発展に活かす良識を身につける。
2. 経済社会の問題に関する情報を主体的に収集、分析し、問題の解決策を論理的に述べられる表現力・コミュニケーション能力を修得する。
3. 経済学を体系的に理解し、数値データをもとに経済の現状を捉える手法を修得することで、経済学的な思考に基づく適切な判断力を身に付ける。
4. 社会問題への関心と創造力を涵養し、未知の課題に立ち向かうことができ、様々な人々と協調して経済活動を行うことができる社会人になる。

(経済学部経営学科ディプロマ・ポリシー)

グローバルに展開する企業や、千葉県などの地域密着型の企業で活躍できる人材として、建学の精神である「敬天愛人」の心構えを持ち、経営学に関する幅広い知識だけではなく、実践的な現場対応力も身に付け、グローバルとローカルという2つの地域的視点で組織をマネジメントできる人材を養成することを目的としている。この目的を達成するために、以下の5項目の到達目標を定め、これら5項目の目標達成のために配置された所定の科目を履修・修得した者に対して、学士(経営学)を授与する。

1. 社会人として必要かつ健全な倫理観と一般的教養を身に付け行動できる。
2. 経営学の基本的な知識に基づき、企業人として求められる思考力を身に付け行動できる。
3. コースごとに設置された専門分野の知識に基づき、企業人として求められる思考力を身に付け行動できる。
4. 思考・判断・実践する力を身に付けた企業人として変化に対応できる。
5. 多様性を理解し高いコミュニケーション力で、協働して目的を達成できる。

(国際学部国際学科ディプロマ・ポリシー)

急速にグローバル化が進む世界の中で、建学の精神である「敬天愛人」の理念の下、多様な文化を理解し、国際的な視点から日本及び地域社会で協働し、その発展に貢献できる人材を育てる。コミュニケーション能力を高め、日本や諸外国・地域の歴史や文化、現代社会における諸問題について、国内外での能動的学修(アクティブラーニング)を重視する学びを通して、論理的な思考力と課題の発見・探求・解決に向けた実践力を身に付けることを目的とする。この教育目的を達成するために、以下の4項目の到達目標を定め、これらの目標到達のために配置された所定の科目を履修・修得した者に対して、学士(国際学)を授与する。

1. コミュニケーション能力、および高度な英語の運用能力。
2. 多文化理解を基礎とする国際的な教養。
3. 卒業後の進路目標に応じた専門知識の体系的修得。
4. 社会で協働し、その発展に貢献できる力。

(国際学部こども教育学科ディプロマ・ポリシー)

建学の精神である敬天愛人を実践し、国際的視野に立って、子供の教育に真剣に取り組む人を育てることを目的とする。この目的を達成するために、以下の4項目の到達目標を定め、これら4項目の目標達成のために配置された所定の科目を履修・修得した者に対して、学士(こども教育学)を授与する。

1. 子供を総合的に理解し、教育する力。
2. 国際理解を深め、多様な価値観を認める力。
3. 豊かなコミュニケーション能力。
4. 実践的活動を通して地域に貢献する力。

(教育学部こども教育学科ディプロマ・ポリシー)

幅広い教養と教育に関する深い専門的知見を兼ね備えたうえで、よりよい社会の形成に寄与しようとする意欲をもつ人材の養成を目指す。また、人間の成長と発達に関する学問分野に基礎を置き、様々な社会や環境において主体的に生きる人間と、その人間が果たす役割、行動や思考、人間と人間の関わり合いやコミュニケーションを研究する。これを達成するために設置された所定の科目を履修・修得した者に対して、学士(教育学)を授与する。

1. 子供を総合的に理解し、教育の専門性を身に付ける。
2. 国際社会を理解し、多様な価値観を認める。
3. 豊かなコミュニケーション能力を身に付ける。
4. 実践的活動を通して地域に貢献する力。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

学生便覧(CAMPUS LIFE)への掲載。
ホームページで公表。

https://www.u-keiai.ac.jp/economics/educational_p/diploma/
https://www.u-keiai.ac.jp/international/educational_p/diploma/
https://www.u-keiai.ac.jp/education/educational_p/diploma/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	敬愛大学
設置者名	学校法人千葉敬愛学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページで公表。 https://gakuen.u-keiai.ac.jp/finance/
収支計算書又は損益計算書	ホームページで公表。 https://gakuen.u-keiai.ac.jp/finance/
財産目録	ホームページで公表。 https://gakuen.u-keiai.ac.jp/finance/
事業報告書	ホームページで公表。 https://gakuen.u-keiai.ac.jp/finance/
監事による監査報告(書)	ホームページで公表。 https://gakuen.u-keiai.ac.jp/finance/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページで公表。

<https://www.u-keiai.ac.jp/outline-disclosure/appraisal/>

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: ホームページで公表。

<https://www.u-keiai.ac.jp/outline-disclosure/appraisal/>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 経済学部 国際学部 教育学部
教育研究上の目的 (公表方法：ホームページで公表。) https://www.u-keiai.ac.jp/economics/ https://www.u-keiai.ac.jp/international/ https://www.u-keiai.ac.jp/education/
(概要) 経済学部では経済学や経営学の理論を学び、実践を通じて現実の問題に応用する実学を身に付ける。企業や自治体での実習、学外のフィールドワークを豊富に取り入れた実践的学びを推進している。 国際学部では「聞く・読む・話す・書く」の 4 技能を伸ばし、総合的な英語力を身に付ける。英語による発表やディスカッションなどを通じて、自分の考えや主張を適切に伝えるコミュニケーション能力を高めている。 教育学部では 4 年間を通じて教育現場を体験できるプログラムを用意し、子供と触れ合い、学級運営などの補助に加わることで、児童の実態について理解を深め、教員に必要な資質能力を磨いている。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：ホームページで公表、学生便覧「CAMPUS LIFE」への掲載。) https://www.u-keiai.ac.jp/economics/educational_p/diploma/
(概要) 敬愛大学教育憲章で示された建学の精神「敬天愛人」に基づく総合的人間力を持つ人材として、所定の単位を修得し、「知識と教養」「専門性に基づく思考力・判断力」「多様性の理解と協働性の実践」の到達目標を実現するための努力を惜しまない学生に対して卒業を認定し、学士の学位を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページで公表。) https://www.u-keiai.ac.jp/economics/educational_p/curriculum/ https://www.u-keiai.ac.jp/international/educational_p/curriculum/ https://www.u-keiai.ac.jp/education/educational_p/curriculum/
(概要) 経済学部ではディプロマ・ポリシーに基づき、教育課程の編成・実施を行う。シラバスによって各科目の内容と位置付けを明確にし、学生に周知するとともに、セメスターごとに単位取得・成績評価状況に対応して教員と職員が一体となったきめ細やかな学修支援を行う。また、主体的な学びにつなげるため、積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れる。多様な背景を持つ学生の受け入れに対応するため、大学生として必要な知識や技能を能動的に身に付けるための基礎科目を 1 年次に必修として配置する。 国際学部では 1 年次から 4 年次まで少人数のゼミを開講し、大学での学びの道しるべとしている。大学生として必要な基本的な知識や技能を能動的に身につけるため、1 年次に教養科目、外国語科目、情報基礎科目を開講する。国際学科では 2 年進級時に、各自の関心に合わせ「英米語」「日本・国際理解」「国際ビジネス」の 3 専攻のいずれかを選び、専門科目については自専攻から 1/2 以上履修する。また、自専攻の科目に偏らず、他専攻の科目もできるだけ履修し、幅広い知識の習得を目指す。 教育学部ではディプロマ・ポリシーに基づき、各科目の内容や位置づけが学生に周知され、教職員が一体となり単位修得や成績評価の状況に応じて、きめ細やかな学修支援を行う。学生の主体性や意欲を引き出すアクティブ・ラーニングや実践的活動を多く取り入れている。

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページで公表。） https://www.u-keiai.ac.jp/juken/outline/admission-policy-2021/</p>
<p>（概要） 建学の精神である「敬天愛人」の理念の下、健全な倫理観と豊かな人間性を形成するための知識と教養をもち、社会における諸課題を発見・探究・解決し、社会の発展に貢献でき、多様な人々とコミュニケーションし、協働できる人材を育成することを目的とする。敬愛大学は、大学教育を受けるための基礎的な学力を有し、建学の精神である「敬天愛人」の理解に努め、社会で幅広く活躍したいと望む人物を、日本および国際社会に対し広く求める。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：ホームページで公表。 https://www.u-keiai.ac.jp/outline-disclosure/information/koukai/</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
経済学部	—	18人	10人	人	人	人	28人
国際学部	—	15人	2人	2人	人	人	19人
教育学部	—	8人	6人	人	人	人	14人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		108人					108人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		<p>公表方法：ホームページで公表。 https://www.u-keiai.ac.jp/economics/teacher/economy/ https://www.u-keiai.ac.jp/economics/teacher/management/ https://www.u-keiai.ac.jp/international/teacher/inter-study/ https://www.u-keiai.ac.jp/education/teacher/child-subject/</p>					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>毎年、FD委員会の企画による全教職員を対象としたFDを複数回開催している。その内容は学生支援、教育支援、研究支援と多岐にわたり、外部有識者、専任教員、職員が講師を務めている。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
経済学部	225人	279人	124%	910人	1038人	114.1%	4人	0人
国際学部	98人	108人	110.2%	600人	682人	113.7%	4人	4人
教育学部	72人	75人	104.2%	72人	75人	104.2%	0人	0人
合計	395人	462人	117%	1582人	1795人	113.5%	8人	4人
<p>（備考） 令和3年度入試より国際学部こども教育学科を募集停止とし、令和3年度より教育学部こども教育学科で募集したため、収容定員については経年変化となる。</p>								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
経済学部	196人 (100%)	0人 (0%)	160人 (81.6%)	36人 (18.4%)
国際学部	157人 (100%)	2人 (1.3%)	132人 (84.1%)	23人 (14.6%)
合計	353人 (100%)	2人 (0.6%)	292人 (82.7%)	59人 (16.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 銀行など一般企業、公務員(小学校教員、中学校教員など)他				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 毎年度、シラバスにより「授業のねらい」「到達目標」「授業の進め方」「アクティブ・ラーニングの手法」「成績評価方法」「評価基準」「授業内容」を周知している。

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) シラバスに「授業のねらい」「到達目標」「成績評価方法」ならびに到達目標に対する5段階の判定基準による「評価基準」を明示している。また、事前・事後の学修に必要な内容、時間数も明示している。学修成果の把握は科目ごとに定める試験、レポート等の適切な成績評価方法により行われ、評価基準に沿って厳格かつ適正に単位認定が行われている。				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
経済学部	経済学科	124単位	有・無	1～3年 42単位 4年 46単位
	経営学科	124単位	有・無	1～3年 42単位 4年 46単位
国際学部	国際学科	124単位	有・無	1～3年 42単位 4年 46単位
	こども教育学科	124単位	有・無	2年・4年 46単位 3年 42単位
教育学部	こども教育学科	124単位	有・無	1年 42単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法:		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法:		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページで公表

<https://www.u-keiai.ac.jp/campuslife/map/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
経済学部	経済学科	780,000円	250,000円	250,000円	その他：施設費 授業料：760,000円(2年生～4年生) 施設費：240,000円(2年生～4年生)
	経営学科	780,000円	250,000円	250,000円	その他：施設費 授業料：760,000円(2年生～4年生) 施設費：240,000円(2年生～4年生)
国際学部	国際学科	780,000円	250,000円	250,000円	その他：施設費 授業料：760,000円(2年生～4年生) 施設費：240,000円(2年生～4年生)
	こども 教育学科	760,000円	0円	240,000円	その他：施設費 募集停止のため2年生～4年生が在学。
教育学部	こども 教育学科	800,000円	250,000円	250,000円	その他：施設費 新設のため1年生のみ在学。

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 年度当初には学部別に新入生の履修ガイダンスを実施し、カリキュラム、卒業要件、シラバスの見方、履修登録について説明する。さらにゼミ別に担当教員の下で時間割作成の指導を行う。授業開始に際しては修学支援室職員による履修相談の機会を設け、不安なく授業に臨むことができるよう支援している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 社会・ビジネスで必要な社会人基礎力を”チバイチバン”力と設定し、4年間で身につけるためのキャリア教育を実践している。1年次から段階的に積み重ね、3年次にはインターンシップを正課科目として実施し職業観の涵養を図っている。また、就職フェア・学内選考会を開催し、ターゲットを明確にした就職活動を推奨している。さらにキャリアカウンセラーによる履歴書添削・面接練習など就職活動を全面的にサポートしている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生支援室は、配慮を必要とする学生を含めた学生相談受付窓口となっており、相談内容に応じての支援や学生相談室又は他部署への誘導等を行っている。保健室は、病気や怪我の応急処置・休養、必要に応じた病院の紹介を行う他、心身の健康相談窓口になっている。 学生相談室は、心身の不調に関すること、学業のこと、対人関係のこと、進路のこと、配慮支援など学生生活に関する相談に応じている。現在は、対面以外に電話、メール、ZOOMでの相談も受け付けている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページで公表

<https://www.u-keiai.ac.jp/outline-disclosure/information/koukai/>